

側の核開発者や技術者が驚く位の威力があったらしい(1 説では、広島型原爆の 1 千倍)

従って想定外の威力に、立ち入り禁止海域の外側で操業していた静岡県の第五福竜丸(別項参照)が多量の死の灰を浴び、久保山通信長が半年後に死亡、他の乗組員も大半が癌や白血病、肝硬変等で何年後かに次々と死亡した。



この死の灰は実験から 3 日後、約 240km 離れたロンゲラップ島の住民 64 人が全員 1.75Gy の放射線を被曝し、アメリカ側は被曝の後、軍艦でクェゼリン環礁に強制移住させ、治療を行った。

実験から 3 年後の 1957 年、アメリカ政府はロンゲラップ環礁の安全宣言を行い、島民全員の帰宅を認めた、が、帰島した住民の多くは甲状腺腫瘍ができ、子供は白血病で死亡した。

僅かに残った島民はアメリカ政府に抗議する術もなかったが、1985 年、グリーンピースが環礁から島民を救い出し、クェゼリン環礁の Mejatto 島と Ebeye 島に避難させたが、小さな環礁なので生活の手段がなく、自殺者も出てしまった。

2001 年、アメリカ政府は重い腰を上げ、なんとか島民が帰島できるように放射能汚染除去作業に着手したが マ・シャル諸島共和国政府は、アメリカ政府に対して補償問題を提起している、が解決への道は険しい。

核実験、核兵器、原子力潜水艦、ウラン弾、原発その他核関連による被曝による犠牲者は多数いると思われませんが、各国は国の威信にかけて公表することはありません。

Q：核廃棄物保管施設、核実験跡地、その他核関連施設における放射性物質の影響はどのような影響がありますか？

A：核爆弾開発実験を行い、現に核爆弾を保有している国々、原子力発電所を国内に建設し運用している国々も、核廃棄物問題では各政府とも頭痛の種になっているはず。また、各国とも原水爆実験による死の灰の散布、放射能汚染の後始末、原水爆爆弾製造によって生じた核廃棄物、原子力潜水艦同士の衝突、沈没、原子力潜水艦の海中への廃棄、汚染水の垂れ流し、それが周辺各地に深刻な問題が生じています。

例を挙げますと、アメリカ、ワシントン州(首府のあるワシントン DC ではない)、北米の北西に位置し、カナダに接し、イチロ - 選手が所属するシアトル・マリナ - ズの本拠地)このワシントン州の奥地でコロンビア高原の中央でコロンビア川が大きく



蛇行し、ヤマキ川にも囲まれた広大な地で、年間の降雨量少ない乾燥地、砂漠に近い状態の荒地で、アイダホ州に接する辺りに広大なハンフォ - ド核廃棄物処理場があります。